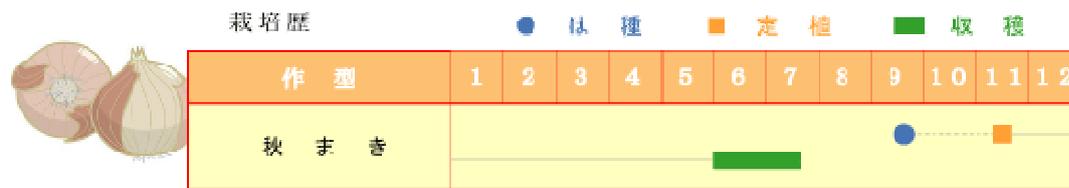


たまねぎ



栽培ポイント

- (1)栽培に要する労力は比較的少ない。品種の組み合わせにより長期収穫が可能です。
- (2)土壌の酸性が強いと燐酸の肥効が劣り生育が悪くなるので、有機物、石灰等の土壌改良材を早めに施用しましょう。
- (3)発根力の強い健苗を育成し、適期定植により活着を早めましょう。

品種・は種

- 品種
 - 早生種:ソニック
 - 中生種:ターボ、OK黄
 - 晩生種:OP黄

育苗

- は種期
 - 9月中旬～下旬頃
- は種床施肥
 - 幼苗は肥焼けをおこしやすいので、施肥量に注意し、10日以上前に施用しましょう。

完熟堆肥	1kg/平方メートル
苦土石灰	0.16kg/平方メートル
過石	0.06kg/平方メートル
高度402	0.08kg/平方メートル

- 畦づくり
 - 畦幅120cm×高さ10cmのあげ床にします。
 - は種方法
 - 条間8cm、深さ6～8mmの溝に薄まき、または「バラまき」とします。軽く覆土、鎮圧し、十分かん水した後、乾燥防止のため籾殻、ワラ等を敷くとよいでしょう。また、アブラムシ防除のため白寒冷紗のトンネルを掛けましょう。(ただし、軟弱徒長しやすいので注意する必要があります。)
 - かん水
 - は種後から発芽揃いまで乾燥させないようにし、その後は、乾いたらかん水します。
 - 間引き
 - 草丈5～6cm、本葉2枚の頃密生部のみ1.5～2.0cm間隔に間引きを行います。(10月上旬頃)
 - 追肥
 - 生育状況を見ながら追肥を行いましょう。
- NK化成 0.2kg/平方メートル

🌱 定植準備

■ 土壌改良

タマネギは浅根性ですが、深耕の効果が大きいので充分耕耘したほうがよいでしょう。酸性に弱いので堆肥、苦土石灰は20日以前に施用し、耕耘しておきましょう。

■ 施肥

元肥は緩行性の有機質肥料を主体とします。10日以上前に施用し、土壌の全層に良く混和します。

完熟堆肥	2000kg/10a
苦土石灰	140kg/10a
過石	80kg/10a
高度402	80kg/10a
野菜800	100kg/10a
硫酸加里	10kg/10a

■ マルチ

135cm幅の黒マルチを張る。

🌱 定植

■ 定植時期

11月中下旬

■ 苗の選別

育苗日数55～60日。草丈25cm、葉数3.0～3.5枚、基部の直径6～8mm位のものを選びます。

■ 栽植密度

6条×株間15cm(通路40cm)

■ 植え方

採苗後、根を乾燥させないように速やかに定植しましょう。マルチの上から棒で穴をあけて、苗をさします。植える深さは2～3cmとし、葉の分岐点より上に土をかけないようにします。また、植え付け後、風の強い地域ではマルチが強風で飛ばされないように、1mおきに土を乗せておくようにしましょう。

🌱 定植後の管理

■ 追肥

マルチの上から2月下旬までに追肥を行います。3月上旬以降の窒素肥料の追肥は、腐敗球を増加させるので避けましょう。

NK化成 20kg/10a

🌱 主な病害虫と防除対策

■ べと病

気温15℃前後で多湿時に発生が多くなります。

苗床は排水不良地を避け、軟弱徒長とならないように薄まきします。発病を見たら早いうちに集中的に防除を行いましょう。

■ 萎縮病

アブラムシにより伝染しますので、特に発生期のは種から12月上旬及び、4月下旬以降の防除を徹底しましょう。

■ 白色疫病

晩秋から春にかけて、温暖多雨の場合に発生が多くなります。低湿地を避け、排水の良いほ場を選定しましょう。

主な病害虫と防除対策

■ 不時抽台

一定の大きさに達した苗(葉鞘径10mm以上)が、越冬中の低温(10~12℃以下)に、一定期間(1~2か月)遭遇すると花芽分化し、その後的高温長日により抽台します。

■ 分球、裂球

老化苗、分けつ苗を使用した場合や、収穫の遅れにより発生します。

■ 腰高球

低温、干ばつ等による肥大遅れにより、葉鞘が長くなり腰高球となります。

■ 貯蔵中の腐敗

多肥(窒素過多)により結球期間が長引くことで、「首部のしまりの悪い球」になり、首部から雑菌が侵入し腐敗します。

収穫

茎葉が8割程度倒れ始めた天候の良い日に収穫を行いましょう。